



セルゲイ・エリセーエフ（一八八九～一九七五）は、西洋における最初のプロのジャパノロジスト（日本学者）といわれる。

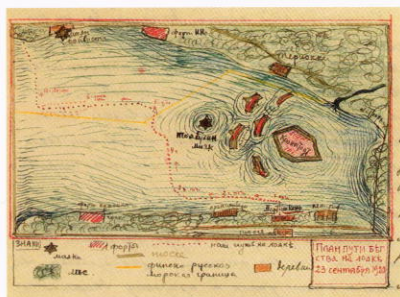
ロシアの大富豪の家に生まれ、明治四十一年（一九〇八）に來日。東京帝国大学で日本文学を学び、夏目漱石にも師事した。

ロシアに帰国後は、ペトログラード大学講師、外務省公式通訳官等をつとめる。しかし、革命に巻き込まれて全財産を没収され、投獄もされたため、フィンランド経由でフランスへ亡命した。パリでは、ソルボンヌ大学の高等研究院の正教授にまでなりましたが、その直後に請われてアメリカへ渡り、ハーバード大学の東洋語学部長に就任し、元駐日大使エドウィン・O・ライシャワーをはじめ多くの著名なジャパノロジストを育てた。

『赤露の人質日記』は、ロシア革命の後、フィンランドへ脱出するまでの苦難を克明に綴ったもの。パリ亡命直後に依頼を受けて日本語で執筆したものが、大正十年（一九二一）七月から十月にかけて大阪朝日新聞に連載され、同年朝日新聞社から単行本として出版された。エリセーエフの原稿は、ほとんど手直しをする必要のない完璧な日本語であったという。

『日記』の冒頭に、親類へ送った手紙を材料にしたことが認め

られているが、掲出の露文草稿がその「手紙」そのものである。このロシア語の草稿は、日本語の『日記』よりも詳細であり、また、刊本にはないフィンランドへの脱出経路図が描かれているなど興味深い現存唯一の自筆草稿である。



フィンランドへの脱出経路図

（天理図書館 三濱靖和）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>  
◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）  
○1月の休館日：年始休館6日まで・26日・31日  
（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）